

テ グ コ リ	非 該 当	チェック項目	取組 レベル	具体的な取組 (異なった取得認証があれば、 併せて記載してください。)	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1		【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している	基本	・雇用、教育、昇進・登用、福利厚生などあらゆる雇用条件で、差別しない体制を構築し、経歴アップが積極的に関与している(研修の実施、相談窓口の設置)							5.1		8.5		10.2		16.1				
2		【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している	基本	・【予定】ハラスメントを禁止する旨を就業規則に明記する ・研修の実施、相談窓口を設置している ・【予定】職場いきいきアドバンスカンパニー認証を取得する							5.1		8.5		10.2		16.1				
3		【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる	基本	・労働基準法等の改訂内容を経営者を含め共有している。長時間労働是正のための労働生産性の改善、時間管理を行っている										8.5							
4		【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している	基本	・【予定】外国人技能実習生等の外国人労働者への適切な処遇や労働環境の整備などを行う(交流会、意見交換会の開催など)			4.4						8.7		10.2						
人 権 ・ 労 働		【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる	基本	・社員向けの労働安全衛生講習会の実施、社内SNS等を活用して周知徹底している。 ・法定定められた機械等の法定点検を確実に実行記録して運用している。			3							8							
		【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる	基本	・【予定】メンタルヘルスに関する方針と計画を策定する ・【予定】メンタルヘルスに関する職場の理解を促進するための研修を実施する ・【予定】メンタルヘルスに対応した休職規程等を整備する			3														
		【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる	基本	・【予定】多様な人材が活躍できる社内チャレンジ制度を設ける ・【予定】多様な人材の活躍状況をHRやFacebook等で積極的に発信する ・介助専門士が在任しており、介助必要な方が活躍出来る構造的整備をしている					5.1		8.5		10.2								
		【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	基本	・施設や設備に応じた研修体系を整備し実施している(主任研修、管理監督者研修 他) ・【予定】プレス技術検定取得に向けた講師を呼び出し10回程度研修を行う				4	5.5			8	9								
		【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している	基本	・【予定】パートタイム労働法、労働契約法等の改正内容を理解し、同一労働同一賃金等の原則に沿った体制の整備・対応を行う					5.5			8.5		10.2	10.3						
9		【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる	チャレンジ	・経営陣みずから健康経営勉強会等に参加し内容を周知させている ・健康診断を100%実施し、生活改善指導の実施も行っている			3					8									
11		【廃棄物】 ・廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる	基本	・【予定】廃棄物の種類・量など現状を把握し、台帳を整備する ・【予定】削減のための計画を策定する										11.6	12		14.1				
12		【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している	基本	・【予定】省エネ診断を実施する							7.3					13					
13		【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる	基本	・【予定】算定ツールなどを利用して温室効果ガス排出量を把握し、削減の計画を策定する							7.2				12.4	13.3					
環 境		【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	基本	当社で法令等で規制されている有害化学物質の取扱はありません			3.9			6.3				11.6	12.4						
		【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に影響を及ぼさないよう配慮している	基本	・畜産に配慮した材、製品、サービスの提供を通じて生物多様性保全に配慮している ・【予定】事業全体における生物多様性への依存と影響を把握し、負の影響を削減するための計画を策定する						6.6							15				
		【3Rの推進】 ・リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる	基本	・工場の資源利用の削減、再利用を推進している ・海洋汚染につながるプラスチック数容器包装への対応として、使い捨てプラスチック使用の削減等を推進している											13		14.1				
17		【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	チャレンジ	・【予定】自社の水源を含む水利用状況を把握し、使用量削減等の計画を策定する						6.4											

テ ゴ リ	非 該 当	チェック項目	取組 レベル	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																	
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
		【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している	チャレンジ	・【予定】エコアクション21取得をする			3.9			6	7						12	13.3	14	15		
		【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	チャレンジ	・【予定】HP等で環境情報を公開し、環境報告書を発行する													12.6					
		【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	チャレンジ	・【予定】工場やオフィスへの太陽光パネル、その他再生可能エネルギー派生装置の設置と利用、グリーン電力の使用に努める							7.2							13				
		【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる	チャレンジ	・【予定】認証製品（森林、パーム油、ゴム、コーヒー等プランテーションにより生産される原材料、天然水産物および養殖水産物）を利用する ・非合法材を使用していないことの確認を行っている														12.2	13	14	15	
公 正 な 事 業 慣 行		【汚職・贈収賄防止】 ・汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に周知している	基本	・汚職・贈収賄禁止等を含む行動規範を整備し、社内浸透を図っている																	16	16.5
		【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している	基本	・不正競争行為を含む行動規範の整備と社内研修を実施している																	16	
		【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる	基本	・製品開発における特許侵害調査を実施している									8.2	8.3	9							
		【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している	基本	・【予定】「個人情報に対する基本方針」を定めて公表し体制を整備する ・社内研修を行い情報管理ルールを周知徹底している																	16	
		【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱っていないことを確認している	チャレンジ	・自社製品の原材料サプライチェーンを把握している																	16	
製 品 ・ サ ー ビ ス		【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる	チャレンジ	・【予定】取引先との対話を通じた人権侵害防止等の取組状況の確認活動を行う ・【予定】Sedex（サプライヤーエシカル情報共有プラットフォーム）等を活用したサプライチェーン上のリスク管理を行う					5			8		10		12	13	14	15	16	17	
		【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	基本	・製品・サービス使用時に想定されるリスクの洗い出しと対策を実施している			3.9										12.4					
		【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	基本	・顧客からのクレーム対応履歴の管理、製品の不良履歴のデータベース化など、品質を確保する仕組みを構築している ・【予定】顧客の声を社内共有するための基本方針・体制・ルールを策定、従業員向け研修の実施する										9								
		【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	チャレンジ	・製品設計時におけるライフサイクルでの環境影響の把握を行っている ・製品のリサイクル率でデザインできるよう製品開発をしている							6							12	13	14	15	
		【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	チャレンジ	・特定の社会課題解決をテーマとした製品開発を推進している（自然由来新素材を利用した製品開発など）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	

	非該当	チェック項目	取組レベル	具体的な取組 (県などの取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
32	社会貢献・地域貢献	【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本	・地域との対話・見学会などを実施し、対話に基づき、事業の地域への影響の把握を行い改善に努めている				4					9		11	12		14	15		17
33		【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレンジ	・地域の防災活動、清掃活動に参加している ・地域の次世代を担う人材（学生・子ども等）への交流・育成機会（キッズスクール等）を提供している ・地域活性化活動に積極参加し貢献している				4							11			14	15		17
34		【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外販）している	チャレンジ	【予定】地域の原材料の優先利用を促進する								8	9		11	12	13				
35	組織体制	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有している	基本	・経営理念を明文化している ・【予定】経営者が理念を持ち、適時、経営理念、経営目標を社員に説明し、共有するようにする								8	9								17
36		【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	基本	・【予定】社内報や掲示板等で法令順守（コンプライアンス）の重要性を全社員に向けて発信する ・【予定】コンプライアンス研修を実施する																	16
37		【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	基本	・【予定】責任者（担当役員）、CSR管理者を任命する																	16
38		【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	基本	・適宜ステークホルダーと対話し、自社活動のステークホルダーへの影響を把握し、具体的な内容に努めている																16	17
39		【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している	チャレンジ	・【予定】リスクマップ等を活用してリスクの洗い出し、評価を行った上で、適切な対策を講じる																	16
40		【社会的責任】 ・CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる	チャレンジ	・【予定】CSR方針の策定、CSRマネジメントプロセスを整備する																	16
41		【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	チャレンジ	・事業継続計画（BCP）の策定、定期的な訓練を実施している ・【予定】レジリエンス認証を取得する									9		11		13 13.1			16	
42		【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	チャレンジ	・後継者候補がいる ・サクセッションプラン（後継者育成計画）を作り、検討を進めている								8	9								17

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組	具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

【記載留意事項】 ・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取り組む予定のものにあっても「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。（今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前に【予定】と記載してください。） ・「非該当」欄については、「チェック項目」が事業形態上（個人事業主等）、該当しない場合にチェックし、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。 ・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載してください。 また、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等（※）を取得している場合は、その旨を併せて記載してください。 （※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、信州福祉事業所認証・評価制度、えるぼし認定、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など）
--